

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は玄関、事務所に掲げ「おひさま暮らし」「真心と笑顔の通い合うホームの暮らし」に重きを置き折に触れ全体会議、内部研修、個人面談等で確認しあっている。	玄関を入ると自動ドアが大きく左右に開き、その正面に基本理念が貼ってあります。「利用者ありき」の心のおもてなしの信念を会議や研修等で職員全体に周知を図り、日々笑顔で取り組むように心がけていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として認知されつつある。交流センターの児童、関係者との交流、夏祭り、中学体験学習等交流の幅が広がっている。近所の住民との交流は地域役員が協力的である。	ホーム脇に落ちる枯葉を集めて、地域の皆さんや児童館を利用する子ども達と一緒に焼き芋大会を開いています。ちょっとしたイベントでも、利用者さんは生き生きとされ、地域の方々や子どもたちとの交流を楽しんでいました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方等の施設申込み、見学の希望時等に認知症を持つ家族の悩み相談にのったり認知症について個々に話をする機会を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の声、施設の内容等双方向での理解を目的としている。地域との交流について紹介、相談に乗って頂き地域との関わりも協力的である。防災訓練、行事、家族会にも参加して頂く等サービスの向上に繋げる事ができている。	地区長をはじめ、民生委員の方2名、利用者代表も参加して、2か月に1度の奇数月に開催されていました。5月は防災訓練、9月は敬老会に合わせて開催し、実際の様子を体験して頂き、交流を深めていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査時、また運営推進会議の機会に事業所の日頃の様子をお知らせ至り、意見、情報を頂いている。	市町村会議に参加し、イベント開催時には、ちらし配りから地元の方に協力して頂いていました。夏祭り当日には100名以上の方が参加され、フランクフルトや焼き鳥、生ビールと盛大に開催されました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては会議・研修・実践の場においても意識の共有化を図り、職員間の正しい理解を高めている。玄関の施錠については、しないことを基本としているが、やむを得ない場合が多い、職員の連携の中で開放に努めている。身体拘束適正化等に基づき外部からの委員さんに報告し、意見を職員の会議で報告している。	身体拘束のないケアに心掛けて、研修や会議で職員全員の共有理解を徹底し、関わっています。特に人命にかかわる問題に至っては、利用者さんが納得するまで、一緒に付き合っって対応していました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について研修会を設け防止に努めている。入浴時など外傷チェックをしている。確認されれば原因の明確化を図る。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人研修は受けているも、制度の理解は職員までは入っていない。日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用については必要に応じ社協や市の担当者等と話し合いを持ち活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはきちんと説明し不安や疑問点については理解し納得頂けるよう説明している。入所後においても疑問や質問事項には常に説明に応じ理解して頂くよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約時には苦情受付窓口等について説明をしている。利用者・家族等には何時でも、何でも話しやすい雰囲気づくりに努め、年一回の家族会の意見はサービス向上、職員のモチベーションの向上に繋がっている。	ご家族とは、何でも言いやすい雰囲気作りに心掛けて、不安な家族には事業所から連絡を入れるなどして関係性を密に築けるように工夫されていました。利用者転倒時の家族への連絡も丁寧な説明をして対応するように心掛けていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の導入により年3回の自己評価表の提出の義務付け、面談を行う。自由に意見が言える内容と環境に努めている。毎月の会議でも何でも言える雰囲気づくりに努めている。意見は各所に反映させている。	会議等では、何でも言いやすい雰囲気作りに心掛け、職員の年齢層が巾ひろくなった、特に若い方の意見を大切に捉えるなどの工夫がされていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度による賃金規程を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により、昇給、昇格を行い、各自向上心を持って働ける仕組みがある。また定年退職後職員も個々の雇用契約で延長しながら、経験を活かした働き方も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほぼ毎月、内部研修を行っている。各月の研修のテーマは、法人グループに於いて日々の研鑽を目的とし研修計画により内部、外部で必要な研修を実施し当事業所の職員はほぼ全員が受け資質の向上に繋げている。また、外部研修にも参加		
14		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当社グループの事業所の職員と研修を通して交流を図ったり、別の事業所の職員に研修の講師をつとめて頂いたりすることで、サービスの質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に初回面接を行い様子や性格、心配事等の把握に努め、入居後一か月程は特に様子を見守り関係性を大事にし、気持ちを引き出せるよう努め情報の共有化を図り、安全安心感のある支援に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等の不安、要望等を納得するまでよく聞き信頼関係が築けるよう努め安心して利用して頂ける取り組みをしている。希望により契約前のお試し期間を設け、家族等の安心感に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に現況を十分聞き家族・利用者の求めていることは何かを把握し状況により他の機関の紹介等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔と挨拶(礼節)の有る暮らし「自分らしく」を基に利用者主体の支援を大事にし、利用者に寄り添い、排泄支援など、さりげない支援をし穏やかな暮らしが保てるよう、プライバシーに配慮しプライドを傷つけない対応に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に状況報告をしたり、毎月の「ユニットだより」に活動内容を掲載し、担当者より個々の近況等を添えている。状態により連絡を要すると判断した場合は相談、面会をお願いしている。面会に来られた折には気軽に話ができるよう雰囲気づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友達等、これまでの関係が途切れないよう事業所ではいつでも来て頂けるよう開放し支援している。友達との交流。年賀状の交換等ありこれまでの関係が途切れない支援をしている。	携帯電話をお持ちの方は、馴染みの理容院に連絡を入れて出かけていました。馴染みの方の訪問も受け入れ、途切れないようにいつでも訪問しやすい開放的な施設作りを目指していました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し和やかな居心地の良い交流が自然にできるよう配慮し雰囲気づくりに努め、孤立しがちな利用者には皆で楽しめるようなレクリエーション等を工夫し参加に繋げられるよう配慮している。。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、会う機会があった時など、失礼にならない様に状況を伺ったり、相談に乗るなど関係が継続されるよう努めている。電話を受け相談にのっている事例はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日常の会話、生活状況の中から又、家族の面会時等に現在の生活についての思いや希望を伺う。意思表示の困難な方には家族からの情報、本人の表情、しぐさ等から得て、カンファレンス、モニタリングして本人本位のプランに繋げる様努めている。	部屋のレイアウトは一人ひとりの意向を聞き取り、特に持ち込みのないすっきりした部屋から、馴染みのある家具の持ち込みで、洋風なおしゃれな部屋など、個性あふれる部屋になっていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の利用者、特に家族に協力を頂き基本情報、アセスメント情報としての生活歴、趣味等を聞かせて頂き、これまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。又、面会者、本人の話しからも本人の希望等のヒントを得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送り時に一人ひとりの様子について確認しあっている。(記録・口頭)毎月のユニット会議においてケースカンファレンスを行い情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族等の意見を大事にしケアプランに反映させ共有化に努めている。評価、モニタリングを担当者等により行い、カンファレンスをし課題の共有化を図り、プランに繋げている。作成後家族に説明し同意を得ている。	ケアプランから作成した介護表やケアプラン実行評価表を1ヶ月ごとに見直して、半年ごとにカンファレンスを行なっていました。状態に変化のある方のご家族への連絡は、丁寧に行ない、急変時の連携にも繋がるような関係性を築いていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やケアプランの実施記録には日々の様子や気づきを書き入れ、情報を共有し、介護計画の見直しにも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との関わり等、本人の要望、思いを優先している。業務に支障有る場合は職員間の連携により業務内容の調整を図り臨機応変に対応できる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関係が少ない。ボランティアの受入れをさせて頂いている。外出時、散歩時に挨拶を交わし声を掛けて頂く事が出来た。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の選択をして頂いている。何時でも変更できる。協力医は月2回往診し症状により随時往診も行っている。変化があれば協力医に相談し家族に伝えている。外部医でも必要とみなせば管理者が利用者、家族に同行する。	家族からの了解を頂き、協力医の物忘れ診療所に通っています。医師の方からは、普段診ている方の同伴が求められ、管理者が付き添って通院していました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職兼務の看護師1名が常勤となっている。日常の関わりの中で情報、気づきについて対応している。居ない時は管理者が出来る範囲で利用者が適切な受診、看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時本人の情報提供を行い安心して治療できるよう支援している。面会に行ったり必要に応じて家族、医療機関との情報交換を行い、退院の目処について病院と確認し合い早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化、看取り指針について説明し同意書を頂いている。その後の状況により必要に応じて再度説明し同意を頂く。職員研修で看取り介護について行い認識を高め、終末ケアに備えた。	看取り指針について法人内研修会では、最後まで訪問看護を入れながら、看取るように学んできています。体調の変化に伴い、ご家族に細やかな連絡を入れて、看取りに望んでいく方針を伺いました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修に於いて急変時、緊急時の対応について盛り込み勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜想定避難誘導訓練を実施。1回は消防署員による初期消火、消火器の使用方法、119番通報について指導、講習を受けている。2回目は夜間想定について防火管理者より講習、訓練確認を実施した。	災害時には近隣住民の協力が必要と考え、日頃から近隣住民、民生委員などの見学者を受け入れ、近くにある児童館からも親子さん達も訪問するなど、内部の状況を理解して頂いていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「真心と笑顔が通い合う暮らし」の理念を大事に実践に努めている。日々言動チェックはその場で気づいた職員がそれとなく注意を促している。排泄介助等支援時プライバシーに配慮し、プライドを傷つけないよう、声掛けと対応に心掛けている。	プライバシーに配慮され、日中は各部屋のドアはしっかり閉められ、部屋の入り口は使い易い引き戸になっていました。棟全体の雰囲気は穏やかで、個々にあったペースで暮らし、満足されている様子が伺えました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けについて命令調・決めつけ的な言葉は避けるように研修会、会議の時など折に触れて確認している。自己決定の尊重は基本理念に有り常に振り返りができる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの「だらしなくていい」「ゆっくりでいい」「できなくていい」「わがままでいい」この思いを常に念頭に置きその人らしい暮らしの支援に努めている。利用者のペースに職員が合わせる、笑顔を大事に怒らない支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着換えの衣類は自分で選んで頂いたり装飾品や化粧をしていた方には今までの生活の継続性を大事に支援している。本人の意向を大切に、いつも清潔であることを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで利用者と職員が一緒に行う事を基本としている。職員も同じものを頂き、一緒に食材の下ごしらえ等できる力を出して頂き、食器を拭く、配膳下膳等役割という意識を持って参加して頂くよう支援している。	食事へのこだわりの強い方への配慮や、好き嫌いも把握して、代替え食の対応を行って行きました。食器洗い、テーブル拭き、モップ掛け、掃除機と、個々の利用者が得意なお手伝いして頂き、職員も一緒に関わって行きました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの希望、状況に合わせて食事の摂取量、水分量の確認をし必要に応じてチェック表に記入し経過観察をし食事形態等に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態や能力に応じたケアをしている。毎食後声掛け誘導している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに応じた排泄方法と場所、時間、介助方法を職員間で話し合い共有している。訴えの分からない方にはチェック表や申し送り等から排泄パターンを把握して誘導し不快な思いの軽減に努めている。極力トイレ排泄を促している。	定時排泄誘導を中心に考え、夜間排泄の対応はそれぞれに配慮し、部屋にポータブルトイレを置いたり、リハパン、パットを夜間のみ装着したり、個々の体調、特性、ニーズに沿って行なっていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し水分補給、身体を動かすことを進めたり便通の良い食材を取り入れる等便秘予防に努めている。状況により医師の指示を受け薬でのコントロールを取り入れる事も有る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望を確認しバイタルチェックを行い入浴して頂いている。週2回以上の入浴を原則としている。入浴拒否のある方へは声掛けの工夫をしコミュニケーションを図りながら本人に寄り添った支援をし入浴して頂いている。	入浴は週2回以上を目安に、個々の希望に即した回数とペースで実施されています。ご本人の体調の把握と意思の確認を行ない、丁寧な声かけで、いつも安心して入れるように、コミュニケーションを密にとって実施していました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後の就寝時間は自由である。一人ひとりの思いで居室に入り休まれる。夜間不穏、徘徊等ある方へはその要因を話し合い、日中起きている工夫等改善についてケアの共有化に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については変更等有った場合は医院からの説明と薬の効用説明書を参考に理解の徹底を図っている。飲み忘れ、誤薬の無いよう職員が2人で確認する配薬から服薬まで3回確認し名前を言い、飲み込むまで見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味、嗜好、習慣を参考に得意分野を取り入れできる事をして頂き、気分転換を図る事で生活の張り合いに繋がる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせてドライブに出かけている(外食を楽しむ等)買い物も希望あれば職員が同行している。敷地内の広場を天候の良い日は散歩を楽しんで頂くよう努めている。	外出は、個別の希望に応じて実施していました。買い物をしたり、気分転換してリフレッシュして頂けるように管理者と共に出かけていました。年に2回外食を楽しむように、皆さんと一緒に回転すしに出かけていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は本人の希望により所持されている方もいる、基本的に小遣いは施設で預かっているが本人・家族の希望により使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望者には制止せず、本人が電話ができるようにしている。年末には年賀状を職員と一緒に書いて頂き、友人との年賀交換が出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房、床暖と年間を通じて快適な温度設定ができる。床、壁、照明など、こだわりがある白を基調とした内装、外には白鷺の舞うを見、そんな風情を持っている、ウッドデッキは共用の場としても多目的に活用できる。	白を基調にした清潔感のある広いフロアで、特に浴室は、各ユニット共有のスペースとして、天井も高く、脱衣所も広く、気持ち良く利用出来る空間になっていました。浴槽も2つあるので、補助具も既に設置され、障がいに応じて入りやすく工夫されていました	浴室全体は、広々とした心地良い雰囲気でしたが、浴室への侵入路に備品が置かれていたり、洗濯機周辺の雑然とした様子が残念でした。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、フロアは快適な暖かさの中でゆっくり寛げる空間となっている。気の合った利用者同士で話をしをしたり皆で楽しめる雰囲気づくり・場所づくりを工夫している。隣のユニットとの出入りは自由で”お隣さん”的関わりを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活の継続性を大事にし馴染みのある家具等を持ち込み利用者と家族により自由に居室内の配置をして頂いている。寝起きもベッドの方も和式の方もその継続となっている。	入居前に丁寧な聞き取りを行ない、自宅で使用していたベットや家具の持ち込みの相談、配置に関してもご家族に相談するなど、出来るだけ入居前と変わらぬ雰囲気づくりに心掛けて、対応されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは分かり易く大きな文字、絵で表示している。自室の入口には表札を付けている。建物内は玄関から全面フラットになっており、自由に往来が出来るよう工夫されている。		